



斉藤専務



斉藤社長



玉之内会長



全員で無事故・無災害を誓う

現場作業に従事する5名によるヒヤリハットの体験を発表

斉藤組(埼玉)

社員・協力会社170名が参集

協力会安全大会でゼロ災害誓う

斉藤組(本社・埼玉県比企郡、斉藤栄一社長)は5月27日、埼玉県吉見町の「フレサよしみ」で、同社社員や協力会社約170名を集めて「安全協力会総会・安全大会」を開催した。当日はボルト長さの拾い出しをテーマにした講習のほか、安全表彰、ヒヤリハット体験発表などさまざまな行事を通じて、協力会を含む全体の安全意識の高揚を図り、全員が安全宣言の唱和で今年度の無事故・無災害を心に固く誓った。

総会・安全大会では、協力会の玉之内鋭会長(玉之内組社長)があいさつで「昨年度は残念ながら労災事故(不労災害)や不安全行動による現場からの指摘などが生じてしまった。ノ

「災害、ノークレームを目標としてきたが、程遠い結果と認識している。本日の参加者全員が、怪我をしない、させない、起こさせない」を、身をもって行動して頂き、次回の大会では無事故・無災害の達成をぜひ報告できるようにしたい」

と述べ、安全意識の高揚と徹底を呼びかけた。平成29年度活動報告及び30年度活動計画を承認後、斉藤組の菊池明グループリーダーが「昨年現場で発生した災害・現場からのクレーム等」について報告。引き続き、斉藤栄悟常務が自主パトロールについて「昨年度受注物件120件に対し、150回自主パトロールを実施した。今後



玉之内会長

「鉄骨工事基礎知識パートIV・ボルト長さの拾い出し」をテーマに同社の斉藤昌弘専務がボルトの長さの計算式を具体的に解説、規格と作業上の注意点を説明し、作業内容の話し合い・意見を出し合い・情報交換しながら、不安全行動を

4社に対する安全表彰の後、鉄建建設安全推進室鉄道安全部の武樋博部長「写真」が「鉄道工事現場の安全」をテーマに講演した。武樋部長は鉄道の安全と特殊性、工事安全面での留意点、工事現場の事故事例などを説明、「基本動作とルールを守る強い意識と行動が最も重要」と強調した。

さらに表彰者を代表して菊池塗装工業の矢作祐二氏が「私たち、斉藤組安全協力会会員は初心を忘れることなく、自分に与えられた仕事に常日頃から無事故・無災害を意識し、面倒な事も、作業内容の話し合い・意見を出し合い・情報交換しながら、不安全行動を

なくし、ゼロ災害を達成することを誓います」とする安全宣言を行い、今年度全国安全週間スローガンを唱和、事故防止を固く誓った。斉藤社長は閉会のあいさつで「お客様の気持ちになつて、安心・安全なより良い仕事を提供できるように取り組んでほしい。東京五輪の開幕を控え、仕事量が多くなる一方で、納期の問題など課題も多くなっている。状況は厳しいが、一人ひとりが安全を守り、今年度こそ無災害を達成できるように全員で頑張っていこう」と安全意識の徹底を求めた。なお、同所で巻上げ機特別教育講習も併催された。